



米国株 MARKET PICK UP



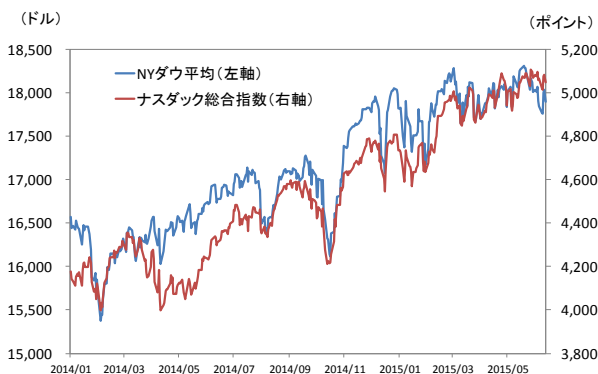
先週の米国株式市場—ダウ平均値ごろ感などから4週ぶりに小幅反発—

	前週終値	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,849.46	17,766.55	17,764.04	18,000.40	18,039.37	17,898.84	+49.38	+0.28%
騰落幅		-82.91	-2.51	+236.36	+38.97	-140.53		
S&P500	2,092.83	2,079.28	2,080.15	2,105.20	2,108.86	2,094.11	+1.28	+0.06%
騰落幅		-13.55	+0.87	+25.05	+3.66	-14.75		
ナスダック総合指数	5,068.46	5,021.63	5,013.87	5,076.69	5,082.51	5,051.10	-17.36	-0.34%
騰落幅		-46.83	-7.76	+62.82	+5.82	-31.41		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場はダウ平均が4週ぶりに反発した一方ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は3週続落とまちまちでした。10日にはダウ平均が1万8000ドルを割り込み200日移動平均線に接近したことによる値ごろ感や、ギリシャの債務問題の進展やドル安による企業収益改善期待から大きく反発しました。また、11日に発表された5月の小売売上高が市場予想を上回ったことで個人消費回復期待が高まりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



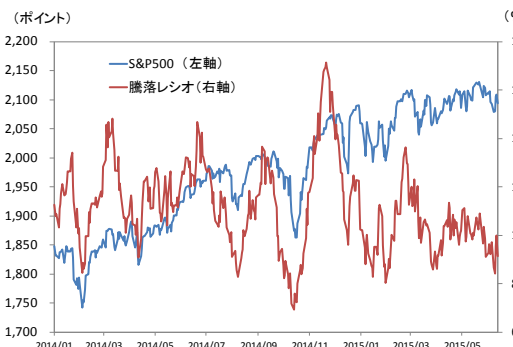
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.0	3.1	2.4%
S&P500	17.7	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.0	3.7	1.1%

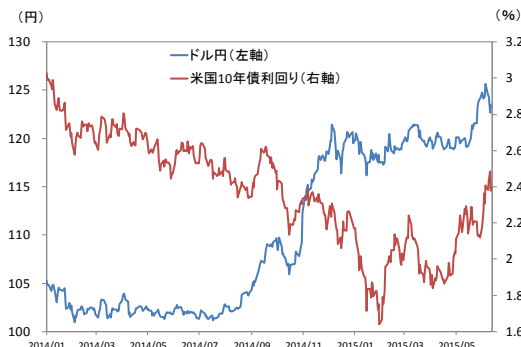
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年6月12日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

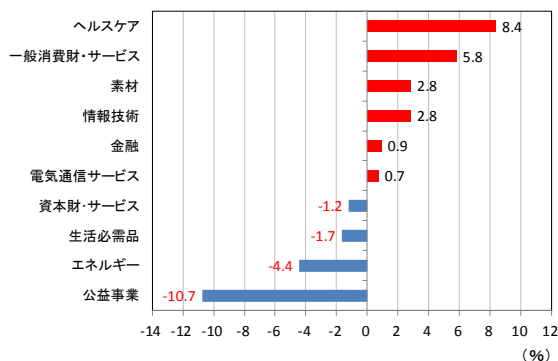
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

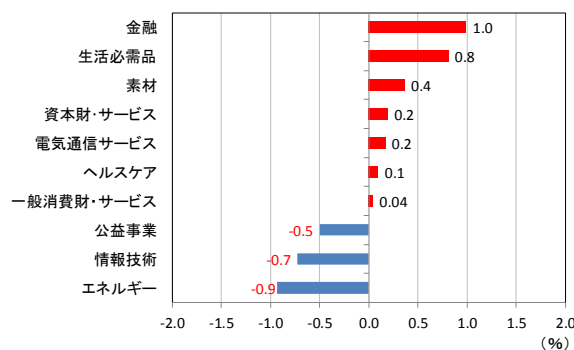
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(6/8-6/12)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CAT	キャタピラー	2.1
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	1.9
NKE	ナイキ	1.7
BA	ボーイング	1.5
V	Visa	1.4
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	1.2
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	1.2
UNH	ユニテッドヘルス・グループ	1.0
MMM	3M	0.6
UTX	ユニテッド・テクノロジーズ	0.5

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(6/8-6/12)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MRK	メルク	-1.9
CVX	シェブロン	-1.7
INTC	インテル	-1.6
AAPL	アップル	-1.2
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-0.9
MCD	マクドナルド	-0.5
MSFT	マイクロソフト	-0.4
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-0.3
DIS	ウォルト・ディズニー	-0.3
XOM	エクソンモービル	-0.3

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の 30 銘柄中 17 銘柄が上昇、13 銘柄が下落しました。ナイキ (NKE) は米プロバスケットボール協会 (NBA) と 8 年間の公式スポンサー契約を結んだと発表したことで買われました。また、依然として長期金利が上昇基調となったことでゴールドマン・サックス (GS) と JP モルガン (JPM) の金融 2 社はそれぞれ堅調でした。

<下落>

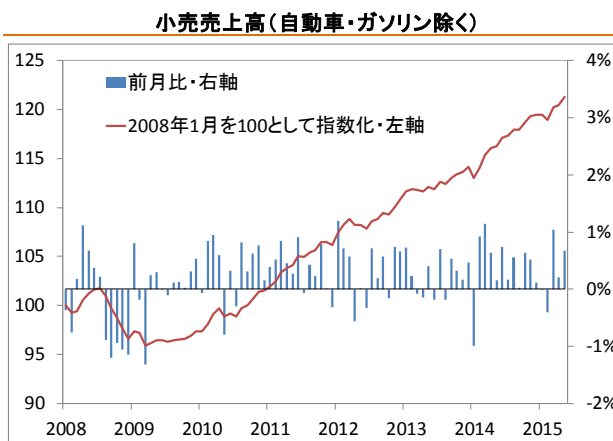
シェブロン (CVX) およびエクソン・モービル (XOM) は WTI 原油価格が 1 バレル 60 ドルを割り込むなど上値が重く推移したことでそれぞれ下落しました。

先週発表された主な経済指標

小売売上高(自動車・ガソリン除く、前月比) 5月 +0.7% 市場予想 +0.5% 前月 +0.2%

11日に発表された5月の小売売上高は、変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高が前月比+0.7%と市場予想(+0.5%)を上回って前月から伸びが加速しました。

同指数は冬場に2ヵ月連続で前月比減少となり、4月分の戻りも鈍かったことから個人消費の鈍化が長期化するのではないかと一部で懸念されていました。ただ、5月分の売上高が高い伸びを見せたことで個人消費の鈍化は寒波などの特殊要因によるものであった可能性が高まりました。4-6月期、また7-9月期以降の米国経済回復加速に期待が持てる好内容と言えます。



今後発表される主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)



16日から17日にかけて連邦公開市場委員会 (FOMC) が開催されます。まずは利上げの有無に注目が集まりますが、5月に公開された3月分のFOMC議事要旨で多くのFOMC参加者が「6月利上げを決定できるデータが揃っていない」との認識を示していたことから、今回のFOMCで利上げが決定される可能性は極めて低いと考えられます。ただ、イエレンFRB議長は5月下旬に年内の利上げ開始に意欲を示し、ダドリーNY連銀総裁やウィリアムズSF連銀総裁など今年のFOMCで投票権を持つ主流派たちも5月末から6月にかけてほぼ同様の趣旨の発言を行っています。このため、FOMC終了後に発表されるFOMCメンバーの金利予想である通称「ドットチャート」で示される今年や来年の予想金利レンジをもとに、利上げ開始時期や利上げペースについての思惑が高まりそうです。

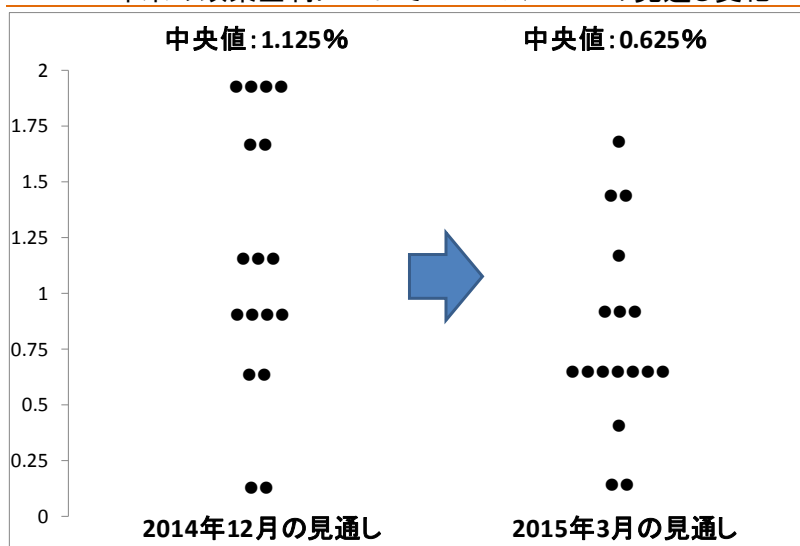
マーケットビュー—今週はなんといってもFOMCに注目—

先週のマーケットビューでは、良好な経済指標が発表されれば利上げが意識され株が売られやすい環境下にあるものの、米国経済の回復は今後の企業収益改善につながることから長期的な視野で見れば株の買いどきではないかと記しました。結果的には小売売上高やミシガン大学消費者信頼感指数が市場予想を上回って前月から改善するなど良好な経済指標が発表されましたが、やはり株価の上値は重く推移しました。

今週の注目はなんといってもFOMCでしょう。経済指標欄でも記したように今回のFOMCで利上げが決定される可能性は極めて低いと思われませんが、重要なのはFOMC終了後に示されるメンバーたちの今後の金利見通しである通称「ドットチャート」です。3月のFOMC終了後にはメンバーの2015年末の金利見通しの中央値について、12月のFOMC時の1.125%から0.625%まで低下していたことで「FOMCは利上げを急がない」とのメッセージが市場に伝わり、ダウ平均は発表後に300ドル以上上昇しました。

今回もドットチャートで2015年、16年、17年の金利状況にどのような見通しが示されるかによって、株価および為替レートに大きな変動が起きる可能性があります。注意が必要です。

2015年末の政策金利についてFOMCメンバーの見通し変化



(出所)FRB発表よりマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会